

ひびき灘

校訓
「明るく 清く たくましく」

平成30年5月16日発行



まははんに慣れること

わだ子ども楽級スタート

12日（土）、今年のをだ子ども楽級の開始式を日比小で行いました。これから1年間、地域の方に先生になっていただき、1年から5年まで約20人が教科書では学ぶことができない、遊びやスポーツ、料理などに取り組んでいきます。こども楽級は



開始式より

わくわく・だいすき・こどもたち・どんどん・もりあがろうをあいことばに、「楽しく」活動することがモットーです。その中で、「時間」「あいさつ」「片づけ」「そうじ」といった当たり前のことを当たり前に行えることを目指します。そして、おじいさん・おばあさんとの世代を超えた交流があり、昔ながらの知恵を学んだり、目上の人を敬い大事にする心を育てたりすることができま

す。さて、子ども楽級の今年の1回目の内容は、「バスケット」。ミニバスの日比少年団の方に講師をお願いし、挑戦しました。初心者向けのメニューとはいえ、結構本格的なアップから入ったので、低学年の子にはハードルが高かったかもしれませんが、少年団の女子にお手伝いしてもらっていたので、笑顔ありの楽しみながらの活動ができました。

小さいうちに地域と関りをもって生活することは子どもの成長に役立ちます。記事を読んで「おもしろそう」とお感じのご家庭があれば、小学校教頭までご連絡ください。今からでも大丈夫です。ぜひご参加ください。



こうやって投げるんだよ

ウナギ博士がやってきた

ウナギ博士こと日本大学教授の塚本勝巳先生が、14日（月）日比小に講演に来てくださいました。著書の「ウナギの謎を追って」は4年生の教科書に掲載されるぐらい有名ですが、先生が日比小出身ということはあまり知られていません。「どんな人が来るんだろう」と興味をもって、子どもたちは講演会に臨みました。

前半の全校児童に対する講演では、先生が「なぜ研究者の道を志したか」「どんな研究をしてきたか」について話してくださいました。昔、学校下の三角公園がまだ池だったころ、大雨の後には横の小川を魚がさかのぼってきていたそうです。また、先生は夏休みを東北の親戚宅で過ごし、近くの川でよく遊んだそうですが、川をさかのぼる魚の行動に「なぜ、どうぶつはたびをするのか」と疑問をもち、研究者を目指すきっかけになったそうです。子どもたちは興味深そうに聞いていました。こうした子どもたちの好奇心から第2の塚本先生が誕生するかもしれませんね。

後半の5・6年生を対象にした講演では、スライドや動画、採取した標本や研究に使った器具などを見せながら、どんな研究をしてきたのかを分かりやすく話をしてくださいました。「うなぎはどこで生まれるのか」。これまで多くの研究者が仮説を立てるだけで解き明かせなかった謎を追い、宝探しのような旅を繰り返し、ついに科学的に検証できたこと。そのための大航海や潜水艇を使って深海に潜った様子、そして旅の裏話など、盛りだくさんのお話でした。予定した1時間半の時間はあっという間にすぎさり、先生はまだまだいろいろなことを子どもたちに伝えたいようでしたが、最後に「研究には終わりはない。1つ謎が解けたら、また次の謎がうかんできます。そして今も新たな謎を解き明かそうと研究を続けています。」話を締めくくられました。

お礼のあいさつで運営委員会の児童が「僕の夢はサッカー選手です。サッカーで先生のように世界に知られる選手になりたいです。」と話しました。今回の講演で子どもたちが、「夢をもち、その夢に探究心・向上心をもって前に進んでいくことの大切さ」を学び、これからは活かしてくれたらと思います。

児童の感想より

私の将来の夢はまだ決まっていません。先生のお話を聞いて、「何か研究してみても面白いかもしれない」と思いました。何をする人になるのかまだ分からないけれど、とりあえず今は小さい頃の夢を目指してみようかなと思っています。そして、将来の夢が見つかったら、がんばって先生みたいな有名な人になりたいです。

小学校の頃の疑問を長年かけて研究し、解き明かす。とても素敵なことだと思いました。でも、一番すごいと思ったのは和田出身だということ。こんな田舎からでも世界で活躍する人になれることです。

ぼくが先生だったら、ウナギの研究を40年間もきっとできません。その研究をあきらめずに続けた塚本大先輩。お話を聞いて、ぼくもなんでもくじけずに挑戦しようと思いました。



14日は「初めての」が目白押し

今年もがんばります おさらい会

14日、3年生の希望する児童が参加して、今年の「おさらい会」がスタートしました。

「おさらい会」は、月曜日に年間20回程度行われる学習ボランティアさんによる算数の

学習会です。九九のあたりから算数につまづきを覚える児童が多いことから、先にも紹介した「わだ子ども楽級」の一環として、「つまづき」の解消と「わかる」楽しさを知ってもらおうと取り組んでくださっています。児童2~3人に対して先生が1人ついてくださることから、わからない部分を気軽に、そして時間をかけて教えていただけるので、今年も多くの子が参加しています。会への参加をきっかけに、算数大好きになったという児童もいるぐらいです。

さて、算数は苦手になるのもすぐですが、コツさえつかめば意外と簡単に得意教科にもなります。ですから、小中のうちの算数(数学)は、「おさらい会」のような繰り返しの学習を大事にしてほしいと思います。「授業中にできた」で終わらせるのではなく、きちんと定着させること。ゲーム感覚でスピードアップに取り組むのもいいです。算数が苦手な子は、「ここまではわかる」というところまでさかのぼって、自主勉強として取り組むことがおすすめです。ぜひご家庭で復習とレベルアップに取り組んでいただけたらと思います。

クラブ活動スタート

4年生から始まるクラブ活動。外国語活動の時間が増えたことから、今年度は年間5時間しか取れませんが、普通の授業と違い、児童がコースを選び、「これをやってみたい」という気持ちを大事にしながら決めた内容で活動するので、子どもたちはこの時間を楽しみにしています。「やってみたいことに挑戦する」ことは、やる気を伸ばし、自信にもつながります。

今年度は、アウトドアスポーツクラブに21人、科学クラブに14人、パソコンクラブに15人、エ作クラブに13人、調理クラブに16人が所属。14日の初めての活動では、初体験の4年生が「どんなことをするのだろう」とわくわく感満載の顔つきで先生の話聞き、一生懸命活動していた姿印象的でした。実施回数が少ないので今年は第1回目から本格的な活動に入りましたが、笑顔と楽しそうな会話が絶えないいいスタートになりました。





タイピング練習
パソコンクラブ



厚紙でフレームづくり
科学クラブ



バスケットで盛り上がりました
アウトドアクラブ



パイづくり「もうちょっとでできるかな」
調理クラブ



何ができるかな？
工作クラブ



できあがいを待つ間に
何を楽しく話していたのでしょうか

あいさつ運動お世話になりました (5/14: 民生委員さん)



子どもの安全を見守る
地域の方の優しい目。
いつもありがとうございます。
います。

調理実習に挑戦しています

5・6年生は、5月になって家庭科で調理実習に取り
組んでいます。体験の少ない児童も多く、「危なっか
しい」手つきの子もいましたが、無事作業完了。苦手
な野菜でも自分で作ったものだと違うのでしょうか。
しっかり食べていました。

これから授業で、いろんな調理に取り組みます。お
時間のあるときには、一緒にキッチンに立って話をし
ながら料理づくりにぜひ挑戦してみてください。



5年生:ゆでたまごとほうろく草のあいど



6年生:朝食づくり(野菜いため)